

視聴覚教育

NO. 406

発行日

26. 10. 31

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

これ知ってる!?

「ピンチイン・アウト」

ピンチインとは、タブレットPCの画面上で2本の指をつまむように動かし、画面表示を縮小させる操作のことをいう。反対に、2本の指を画面上で広げるように動かし、画面表示を拡大する操作をピンチアウトという。

教員自身の情報モラル

学習情報指導員 内田 雅之

今年の8月末、「ICTを活用した教育の推進に関する懇親会」が中間報告を出した。その中では情報モラル教育について「ICTが急速に進展し続ける高度情報化社会においては、情報化の影の部分についても十分理解させることが重要である」とし、その必要性が訴えられている。岡崎市においても全市的に情報モラル教育が展開され、今年度も情報教育推進委員会を中心に、授業モデル案が策定されている。多くの先生方が、子供たちの情報モラルを育てることの必要性を感じ、数々の実践を重ねている。一方世間では、教員による情報漏えいが報道されている。それらは「個人情報情報の保存されたUSBメモリの紛失」「職務上知り得た情報をツイートしてしまう」などであり、教員自身の情報モラルが厳しく問われている。

岡崎市では「電子情報セキュリティポリシー」により、学校業務に関わる全ての情報の取り扱いが詳細に規定されている。学校現場での情報セキュリティは、その規定が遵守されることにより保たれる。前述のような事例を起こさないためには、「規定を守る」という教員一人一人

のモラルを高めることこそが大切だ。我々は、子供の情報モラルだけでなく「教員自身の情報モラル」も高めていかなければならない。

それには、一人一人の教員が、情報モラルについてきちんと「学び、考える」姿勢を持つことが重要である。前述のような事例を決して他人事ととらえず、常に「他山の石」としたい。そして「何がいけなかったのか」「自分自身はどうか」と、自分の現状を振り返り、気持ちを引き締める意識を常に持ち続けたい。さらに「視聴覚教材・機器利用の手引き第19集」の51ページに掲載されている「セキュリティチェックリスト」などの活用により、全ての個人情報情報の管理について、教員同士が見直す機会を持つこともできるだろう。

我々が忘れてはならないのは、学校現場で扱っている子供の個人情報、**「完璧に守らなければならない」**大切なものだということである。「個人情報を守ること」子供を守ること」という意識を全ての教員で共有したい。教員の情報モラルの意識向上は、学校に課せられた大きな課題である。我々自身が真っ向から取り組むことで、学校を子供たちが安心して学べる場にしていくのではないか。

視聴覚教育あれこれ!!

平成26年度岡崎市教育研究大会

九月二日(火)葵中学校で平成26年度岡崎市教育研究大会の学習情報分科会が開催された。研究主題に「ICTを効果的に活用し、「生きる力」につながる情報活用能力と情報モラルの育成を充実させよう」を掲げ、提出された十九点のレポートをもとに熱心な討議が行われた。発表された内容を分類すると、次のようになる。

- ① 情報モラル教育の深化・充実を目指した実践 (五点)
- ② 教科指導における効果的なICT利用を追究した実践 (九点)
- ③ 教科指導以外での効果的なICT利用を追究した実践 (二点)
- ④ 特別支援教育における効果的なICT利用を追究した実践 (三点)



助言者の名古屋大学大学院教授の大谷尚先生からは、提案のあったレポート一つ一つに丁寧な御指導、御助言をいただいた。その中で、教師が高い専門性を身につけるため、不断の努力を続けることが大切であると御教示を受けた。学習情報の実践を続ける我々にとって、とても有意義な会となった。

なお、「父母と教師の教育を語る会(県教研)」には、次の二名が推薦された。

・羽根小学校 成瀬 正和先生

「低学年の授業におけるICTと黒板の有効活用」
 二年算数科「かくれた数はいくつ」の実践から」
 ・北中学校 太田 尚志先生

「ネットモラルを主体的に守ろうとする生徒の育成」
 定期的な情報教育の授業と疑似体験を通して」

実践報告II

大人も子供も情報モラルを学んでいこう

男川小学校 萩原 光彦

技術の進歩に伴い、様々な情報機器が日々改良され、使い易くなってきた。本学級の子供たちもいろいろな機能を使い、調べ学習をしたり、情報交換をしたりしている。

その一方で、世間ではネットが原因のトラブルが数多く起きるようになった。新しい機器を上手に使いこなしていくために、子供だけでなく大人もネットの適切な使い方について学んでおく必要があると考えた。そこで授業参観の日に、OKリンクから利用できる教材「事例で学ぶNetモラル」を使って、「ネットいじめ」について、特別活動の授業を行うことにした。

内容は、一人の女の子が、仲良しの友達に態度に憤慨するところから始まる。ネットの掲示板に友達の名前を書き込むと、他の子からも「それってひどいね」と書き込まれる。それがエスカレーターしていき、書き込みの対象となった子が学校に来られなくなってしまう、という話である。

この教材を基に、子供たちはメールやネット利用について考え、話し合いを行った。子供たちからは「文字や言葉だけで伝えると誤解が生まれる場合があることがわかった」といった感想が出た。また、保護者からは、「携帯やネットはこれから使っていくものだから、どんな問題があるかを知り、対処の仕方を考える機会となった」という声が聞かれるなど、前向きな反応が返ってきた。

この授業を通して、まず子供たちのネット利用の実態を知ることの大切さを実感した。そして、情報モラルを指導していくことは、子供や保護者にとって今後さらに重要になると感じた。



II レッツ・トライII

音声入力機能を活用した国語の授業

授業で使えるネタや授業記録をメモしたいときに、手帳が手元になかったり、メモそのものをなくして困ったりしたことはないだろうか。スマホ利用者が増えてきた今、それを仕事にも積極的に使う事を提案したい。今回、紹介したいのは、スマホの「音声入力機能」だ。今や、音声入力機能は十分に活用できるレベルになっている。試しにメール作成画面で、マイクアイコンをクリックし、何か話しかけてみてほしい。その認識精度の高さに驚かされるはずだ。細かい誤認識はあるものの、素早く文字として残せることや思いついたことを即座に記録として残せる点に、大きな利点と可能性を感じる。

国語の授業では、子供が発表する初発の感想を一つ一つ音声認識させて、データ化した。その後も授業の度に子供の感想を音声認識機能によりデータ化した。データ化した子供の感想は、「コメントカード」の形でプリントアウトして配付した。自分自身が発した音声を、文字という形で振り返ることに對して子供たちからは「しやべったことはすぐに忘れちゃうけど、文字にして読み返すと、自分がその時何を考えてたのかがよくわかる」という感想が聞かれた。その場で消えてしまう「音声」として視覚化することで、教師だけでなく子供たちも自分自身の思考の変容を追うことができた。

音声入力機能で作成・保存したデータはPCからも活用可能なので、学級掲示や学級通信などの学級経営においても利用の可能性は幅広い。みなさんも試してみたいかがだろうか。



(緑丘小学校 学習情報主任 鈴木和一)

ライブブライデーだよ

●岡崎市視聴覚ライブラリー60周年記念第12回ふるさと岡崎メディアコンクール

「ふるさと岡崎メディアコンクール」の作品受付が始まります。児童・生徒が授業で取り組んだ作品や先生方が授業のために作った教材など、ぜひこの機会に御応募ください。全員に参加賞を用意しています。応募要項や応募票は岡崎市視聴覚ライブラリーのHP (<http://www.oavl.jp/>) にあります。多くの作品をお待ちしています。

【募集期間】

平成26年11月10日(月)～12月5日(金)

(郵送による応募も可)

【テーマ】

自由(生涯教育、学校教育に適した教材・作品で、応募者の自作であること)

●岡崎市視聴覚ライブラリー60周年記念

●OAVLマスコット募集

岡崎市視聴覚ライブラリーのシンボルとなるマスコットを募集します。市内在住、在勤、在学の方なら、どなたでも応募できます。優秀な作品には記念品と賞状を贈ります。応募要項や応募票は、岡崎市視聴覚ライブラリーのHP (<http://www.oavl.jp/>) にあります。

多くの応募をお待ちしています。

【募集期間】

平成26年11月10日(月)～12月5日(金)

(郵送による応募も可)

【応募条件】

応募者が考えたオリジナルのマスコット

※お問い合わせ先・郵送先

岡崎市視聴覚ライブラリー

〒444-8601

岡崎市菅生一丁目三番地一

TEL 二三-六七八九

